

製品名: TATA ボックス結合タンパク質ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21552**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:400-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:38kD;Observed MW:38kD

抗原情報

遺伝子名	TBP
別名	TBP;GTF2D1;TF2D;TFIID;TATA-box-binding protein;TATA sequence-binding protein;TATA-binding factor;TATA-box factor;Transcription initiation factor TFIID TBP subunit
遺伝子 ID	6908.0
SwissProt ID	P20226
免疫原	ヒト TATA 結合タンパク質 TBP の合成ペプチド

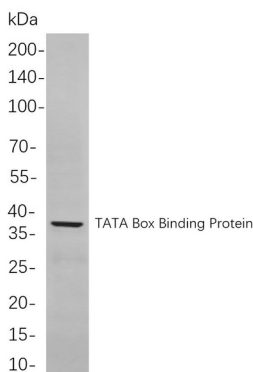
背景

細胞局在: 核。RNA ポリメラーゼ II による転写の開始には、70 種類以上のポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整する

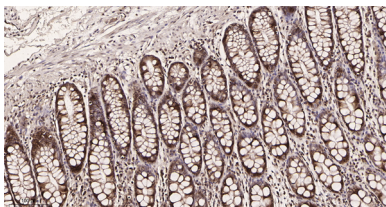
タンパク質は転写因子 IID (TFIID) です。TFIID はコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切な位置に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、制御シグナルのチャンネルとして機能します。TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と、TBP 関連因子 (TAF) として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAF は、基礎転写に関与したり、コアクチベーターとして機能したり、プロモーター認識に機能したり、あるいは一般転写因子 (GTF) を修飾して複合体の組み立てと転写開始を促進したりする可能性があります。この遺伝子は、TATA 結合タンパク質である TBP をコードしています。TBP の特徴的な特徴は、N 末端にグルタミンが長く連なっていることです。このタンパク質領域は DNA の結合を調節します。

研究分野

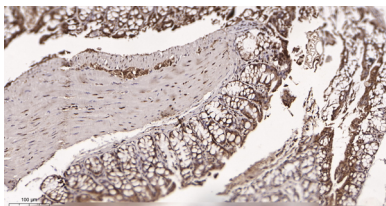
画像データ



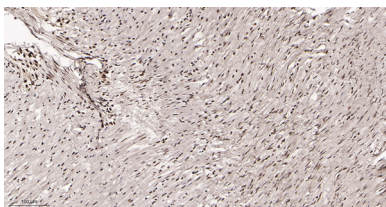
HEK293 細胞のライセートのウエスタンブロット解析。TATA Box 結合タンパク質ウサギ mAb を使用。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析。1、TATA Box 結合タンパク質ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、TATA Box 結合タンパク質ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、TATA Box 結合タンパク質ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。